

墨國石油と日本

同盟來電一不發表一

一、メキシコ市四日發

在メキシコ米國石油關係筋の報ずるところに依れば三井物産の出資にかゝるラゴナ會社は目下メキシコ石油事業統制局との間にメキシコ石油對外輸出可能額の三分の一を占める總額七百萬バレルの石油購入方につき折衝中でその購入を拂方法としては日本は一部を現金で残額はバーター制に依る日本製品の對墨供給を以つてこれに充てる筈といはれる。右米人石油關係筋では斯かる取極めは日墨兩國双方に有利極めて利益あるものだとして左の二點を擧げてゐる。

一、斯かる取極に依つて日本は軍需に必要な石油の供給を確保し得る

一、一方メキシコはは大戦勃發のためドイツの石油購入が停止して以來石油氾濫を來してゐるメキシコ國內の石油貯藏設備に餘裕をつけ得ること。因みに現在メキシコの石油貯藏量は一千七百萬バレルに達してゐるのに對し石油貯藏可能量は一千八百萬バレルに過ぎない、尙斯かる大取引が目下進行中だとの報道に對し日本のメキシコに於ける活動調査に當つてゐる某外國諜報機關も又これを認めてゐる。

二、メキシコ市三日發同盟 三日付當地新聞紙の報道によれば石油事業統制局は日本人經營のヴェラクルザ石油會社の計畫にかゝるタンピコ市近郊のパヌコ河兩部流域に於ける新油田開發促進計畫に對し凡ゆる協力を與へる事に決定したと言はれる右報道によればヴェラクルザ石油會社は既にテホンピク地映タバスコ、チアパ州、ボザ河流域及びヴェラクルス州に於いて既に大規模な油田開發作業を計畫した模様である、因みにヴェラクルザ石油會社は三井の出資にかゝるラゴナ會社から金融をうける豫定である。

39



内閣情報部二六 情報第四號

米紙の外相演説評

同盟來電一不發表

ワシントン三日加藤同盟特派員發

三日付ワシントンポスト紙は有田外相の離會演説は外國の猜疑を解くに足らずとて左の如き論評を加へてゐる。ワシントンポスト紙、日本は支那專横に疲れ英佛と派津問題で争ひ、米國とは危機に到達し、ドイツをソ聯に奪はれその國際的地位危殆に面白くないが有田外相は日ソ通商交渉を強固し日米通商は實際上影響せず獨伊との親善を強化すること云ふと同時防共政策に變りせしと述べ出来る限り樂觀的態度を採つてゐるも真相を知る日本國民も日本軍部は文官をしてうそを言はせることに興味をもつてゐるし、外相の所見は種々分子の意見を代表するとしてもそれは日本が今苦境にあるからこそ斯く云ふので、しからざるに至りなば應硬な意見となるのであらう。

二日付ワシントンポスト紙は有田外相の離會演説は外國の猜疑を解くに足らずとて左の如き論評を加へてゐる。ワシントンポスト紙、日本は支那專横に疲れ英佛と派津問題で争ひ、米國とは危機に到達し、ドイツをソ聯に奪はれその國際的地位危殆に面白くないが有田外相は日ソ通商交渉を強固し日米通商は實際上影響せず獨伊との親善を強化すること云ふと同時防共政策に變りせしと述べ出来る限り樂觀的態度を採つてゐるも真相を知る日本國民も日本軍部は文官をしてうそを言はせることに興味をもつてゐるし、外相の所見は種々分子の意見を代表するとしてもそれは日本が今苦境にあるからこそ斯く云ふので、しからざるに至りなば應硬な意見となるのであらう。